

令和8年第2回土幌町議会定例会

# 教育行政報告

令和8年6月5日

土幌町教育委員会

令和8年第2回定例会の開会にあたり、教育行政報告を申し上げます。

## ■みんなで教育を考える集い

3月15日に「第18回みんなで教育を考える集い」を開催し、約200名の町民の皆様の参加を得て、36個人9団体に文化・スポーツ賞等の表彰を行いました。

表彰を行った後、むかわ町国民健康保険穂別診療所副所長、北洋大学客員教授である香山リカ氏を講師に招き、「子どもの心をのぞいてみれば」と題して講演をしていただきました。

香山氏は、こどもを取り巻く環境や問題について触れながら、子どもが抱える悩みと大人の関わり方について話されていました。この集いは、幼児教育から学校教育さらに社会教育に至る生涯学習について、全町民に関心を持ってもらい、子どもをみんなで守り育てるための教育を考える契機とすることを目的とするものであり、今後とも多くの成果が得られるよう内容の充実を図っていくことといたします。

## ■義務教育関係

次に、義務教育関係について報告いたします。

本年度の小・中学校新入学児童生徒数は、全小学校が33名、中央中学校が51名で、前年度比、全小学校5名減、中央中学校5名増となり、その結果、全小学校児童数は238名、中央中学校生徒数は140名となりました。

全小学校の学級編制につきましては、普通学級は17学級、特別支援学級は14学級で新年度をスタートいたしました。

中学校の学級編制は、普通学級6学級、特別支援学級6学級となりました。

なお、町単独による少人数学級は、士幌小学校第2学年、第3学年、第5学年及び、中央中学校第3学年で編制をいたしました。

本年度の小・中学校教職員の人事異動につきましては、校長2名、教頭2名、教諭17名が4月1日付で発令され、本町に着任し、去る4月3日には教職員辞令交付式・伝達式を行いました。

各学校は、新たな体制の下で新年度を迎え、それぞれの学校教育目標や学校経営方針に基づいた教育が進められていますが、各校の特色や経営課題を踏まえ、児童生徒の学ぶ意欲を高めるとともに、一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育活動を進めて、本町の小・中学校教育の一層の充実を図りたいと考えます。

## ■不登校対策

次に、重点課題の1つであります、不登校対策についてですが、一昨年度から引き続き、中央中学校に不登校対策専門員の配置とあわせて、中学校で実施している「DER（ステップルーム）」の更なる充実のための支援員を昨年度に引き続き配置しております。

各小学校の担当教諭とも情報共有等を行っており、今後も各学校を巡回しながら、不登校の解消等、様々な対策に取り組んでいるところです。

また、今年度4月からの2ヶ月の状況を見ると、長欠者の人数・日数ともに大きく減少しており、取り組みの成果を感じているところですが、更なる改善を目指すため、引き続き関係機関とも連携を図るなど支援の充実を図ってまいります。

## ■都市交流事業

次に、都市交流事業について報告いたします。

士幌小学校及び中士幌小学校の児童交流事業としての美濃市・士幌町フレンドシップ交流事業は、双方の6年生児童が、それぞれの”まち”を訪問する事業として行っており、今年度も、実施の方向で美濃市教育委員会と協議中であります。

また、上居辺小学校が実施している千葉県鎌ヶ谷市児童との交流事業につきましても、実施する旨の報告を頂いているところであります。

## ■全道・全国大会について

次に、小中学生の全道・全国大会への出場についてですが、5月3日から芦別市で開催された第46回北海道中学生バレーボール選抜優勝大会に、士幌音更合同チームに所属する士幌町中央中学校3年の服部瑚奈さん、山田悠乃さん、1年の服部唯奈さんが出場しベスト16に、江別市で開催された第33回北海道ジュニア室内選手権水泳競技大会に士幌町中央中学校2年の山根虎之助さん、士幌小学校6年の山根虎太郎さんが出場しました。

また、士幌町中央中学校3年の橋本杏さんは、サックスで中学生部門20名の中に見事選ばれ、5月4日に千葉県浦安市で開催された全日本管楽コンクール2026に出場し、優秀賞を受賞しました。

個々の努力とそれを支えてこられた保護者及び関係者各位に対し、深く敬意を表すると共に、今後の更なる活躍を期待するところです。

## ■高等学校関係

次に、北海道士幌高等学校について報告いたします。

本年度の入学式は、4月8日に挙行されアグリビジネス科13名、フードシステム科24名、合計37名の新入生を迎え、全校生徒数は115名となりました。

教員の人事異動では、校長、教頭、教諭合わせて8名が着任し、新年度がスタートしたところでございます。

生徒は、自らの夢や想いを実現しようと授業はもとより、農業や食品加工に係る実習、農業クラブや部活動に取り組み着実に成

果を上げております。また、授業のなかでは、食品衛生管理に関する北海道の基準である「北海道HACCP（ハサップ）」をはじめとした4つの外部団体認証について、今年度も継続取得することを目指し取り組んでいるところです。

来年度の入学生確保対策につきましては、士幌町中央中学校をはじめとする近隣中学校や在校生の出身中学校への訪問、さらには進路説明会を実施するなど、随時個別に高校見学を受け付け、授業、施設見学、進路相談等を行います。また、昨年度に引き続き生徒、保護者及び中学校の教員を対象とした学校説明会を町内外で実施する予定です。

さらに、授業や農業クラブ活動、各行事の様子等を新聞や広報誌、またホームページやSNS等を通して広くPRするとともに、オープンスクールを9月に実施し、授業見学や学科体験と併せ、本校の特色や各種支援制度などについての説明を行う予定です。

これらを通して、本校の魅力ある教育内容について中学生、及び保護者等にPRし在校生の教育内容の充実はもとより新入生確保に繋がるよう努めてまいります。

## ■体罰実態調査

次に、体罰実態調査の結果について報告いたします。

全国の小・中学校、高等学校で一斉に、児童生徒、保護者、教職員に対する調査が行われていますが、本町でも昨年12月から2月にかけて体罰の実態を把握する調査を行いました。

回答から体罰に該当する事例はありませんでしたが、これからも、指導と体罰の違いをはっきりと認識し、暴力では子どもを適切に指導することはできないこと、体罰が教育の現場で行われることが決してないように指導してまいります。

## ■社会教育関係

次に、社会教育関係について報告いたします。

柏樹学級には、110名の方が応募し、5月21日に開級式を開催したところでございます。学習内容につきましては、一般教養の講座や研修、ボランティア活動の他、クラブ活動では軽スポーツ、カラオケなど積極的な学習活動が計画されています。女性ライフスクールにつきましては、19名の参加を得て、自主的に活動が開始され積極的な学習活動と地域社会への参加が期待されます。

子ども交流センターで実施する放課後子ども教室につきましては、毎日多くの児童が放課後に多様な活動を行うため教室に参加しています。

また、総合研修センターにおいては令和5年4月1日より指定管理制度を導入し、株式会社オカモトによる4年目の運用が開始されたところです。

## ■スポーツ関係

次に、スポーツ関係では、冬季間閉鎖しておりました屋外の各施設を4月より順次利用を開始しており、屋外スポーツが盛んに繰り広げられています。

町民プールは、6月20日から9月10日までの開設を予定しており、開設期間中には、指定管理者である株式会社オカモトに運営を行っていただくことにしております。

また、平成28年から開始したフィットネス事業についても、機械器具の利用と簡単なエクササイズを行える内容で多くの町民に利用していただいております。昨年度の利用者は、6,112名で対前年度比5.07%増の利用率となったところであります。

## ■学童保育

次に、児童福祉法の規定に基づく放課後児童健全育成事業いわゆる学童保育については、町長から事務委任を受け平成28年度から教育委員会で実施しております。

小学校との連携を図り、保護者が労働等により昼間家庭にいない児童に、適切な遊びや生活の場を提供していくこととしております。

子ども交流センター内での土幌学童保育所を含め町内3箇所の学童保育所の運営は、社会福祉法人温真会に委託しておりますが、6月1日現在の入所児童数は127名で昨年度同期より3名の増となっております。

また、先の第3回土幌町議会臨時会において、学童保育無償化を実施し、利用する保護者の負担軽減へと繋げたところであります。

#### ■こども発達相談センター

次に、こども発達相談センターにつきましては、指定通所支援事業所に指定されてから11年目に入りました。

現在、指定通所支援事業所においては、児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の事業を行っており、5月1日現在で40名の幼児・児童・生徒がこのサービスを利用し、指導・療育を受けています。また、この事業終了後においても1名の児童・生徒の発達を引き続き支援しています。そのため、合計で41名となっております。

また、発達支援センター事業として保健福祉課と連携した乳幼児の育ちや発達の相談、認定こども園や保育所の巡回訪問などを通して、支援を要する子の早期発見・早期支援に努めているところです。本年度においても、保健福祉課で実施している各種健診等において連携を図り、発達障害の疑いのある幼児の超早期の発見・支援を行ってまいります。

さらに、相談支援の充実を図り、支援を要する子や、その家族との相談に対応してまいります。その中で、各種発達検査や知能検査を実施し、発達の状況確認を行い、適切な支援方法の提案を保護者や所属所に対しておこなってまいります。

この施設を利用する幼児・児童・生徒が集団生活の場において、適切な支援で適応できるよう、保護者はもとより、各所属所、関係諸機関、北翔大学のスーパーバイザー等とも連携し、当センターでの相談、療育・指導、支援の質の向上を図っていくこととしております。

なお、今年度から総研北東部に新築された新しいセンターでの療育・指導・相談となります。新施設の機能を活かし、より一層の充実を図ってまいります。

## ■学校給食センター

次に、学校給食センターについて報告いたします。

新学期の開始前に、土幌町立学校における食物アレルギー対応連絡協議会の管理職部会、連携部会を開催し食物アレルギー対応の重要性を深めるとともに、指針などの情報共有を図り、また関係する機関と連携し食物アレルギーの対応に万全を期すこととしております。

令和8年度から国による小学生を対象とした学校給食費支援事業、いわゆる学校給食費の無償化が開始され交付金申請を行い財源措置されるところです。今回対象とならなかった中学生については、引き続き町の重点的な施策の一つである子育て家庭の経済的な負担軽減を展開するために、ふるさと納税を財源として、全ての生徒を対象とした学校給食費の完全無償化を実施致します。

今後におきましても、安全で安心な学校給食を提供出来るよう、関係機関が一体となって取り組んで参ります。

以上申し上げ、教育行政報告といたします。